



研究者名※	赤澤 輝和 AKAZAWA Terukazu	学位※	博士(医学)
所属※	人間社会学部 社会福祉学科	職名※	准教授
連絡先	@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/t-akazawa		
研究分野※	社会科学、医歯薬学		
研究キーワード※	医療福祉、ソーシャルワーク、社会福祉教育・実習、緩和医療、リエゾン精神医学		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> 医療ソーシャルワーカーによる精神心理的苦痛の早期発見・介入パッケージの開発 医療ソーシャルワーカーに対する臨床研究の教育普及方法の開発 医療ソーシャルワーカーの卒前・卒後教育プログラムの開発 がん患者の精神心理的・社会的苦痛に対する介入法の開発 		
社会貢献・産学官連携活動等	・町田市介護認定審査会委員(2017年～)		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> 第13回日本緩和医療学会学術大会優秀演題賞(2008年) 第21回日本サイコオンコロジー学会総会ベストポスター賞(2008年) 		

研究領域	医療ソーシャルワーカー、 社会福祉士、実習教育	(SDGs) 3 下での人に 健康と福祉を 4 質の高い教育を みんなに 10 人や国の不平等 をなくそう
研究テーマ※	医療機関で社会福祉士の実習を行う学生に対する大学教育プログラムの開発	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 研究の最終的な目標は、医療機関で社会福祉士の実習を行う学生に対する効果的な大学教育プログラムを開発し、実装化することである。そのため、エビデンスの収集、実態把握を行い、プログラムの作成、介入研究のデザインを探っている。これまでの先達らの知識や経験に基づく、医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)養成を加速させるために、「これまでの教育をよりよくするためにはどうすればよいのか?」の問いに答えていく。</p> <p>【応用例、研究の展望】 開発する教育プログラムは他養成校でも実施可能、または実態に即して改変し効果の測定まで可能な形式とすることが望ましいと考えている。また、受講した学生や担当した実習指導者の経験に関する質的記述的研究もすすめていく。さらに、教育プログラムの開発プロセス自体が、医療機関や職能団体の研修プログラム開発方法の一助となる可能性がある。</p> <p>【研究方法の特色】 現状では通常の教育の中で得られるデータを用いた後ろ向き観察研究が主である。そのため、他養成校との多施設共同研究や比較研究が可能である。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> 赤澤輝和(2021)「保健医療における福祉的課題」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『保健医療と福祉』中央法規出版, 74-83. 赤澤輝和(2020)「新型コロナウイルス感染症流行下において社会福祉士の病院実習はどのように行われたのか? -2020年の経験」『社会福祉』61, 43-54, 2020. 赤澤輝和(2017)「望ましい社会福祉士の実習依頼とは? -病院の実習指導者の意向」『社会福祉』58, 85-93. 赤澤輝和(2016)「社会福祉士の実習資料はどのように活用できるのか? -病院での実習に向けた事前指導への示唆」『社会福祉』57, 125-131. 	
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> 医療ソーシャルワーカー職能団体との共同研究 医療機関ソーシャルワーク部門と実習教育プログラムの開発 	